夕刊
十一月十六日發行
定價（郵税共）月金六拾錢　五錢
廣告料金　〔略〕
發行所　磐城新聞社
編輯兼印刷人　加藤哲郎
磐城市平字田町十六番地
日曜日祭日翌日休刊

民謠の大衆性に就て

提唱する民謠の文學運動根本主義

ジー。ワイ生

中

惟ふに、大衆性といふものは決して卑俗低級といふ意味ではないのである。それは普遍性といふ意味に外ならなかつたのである。即ち言葉をかへていふならば民謠には普遍性こそ必要缺くべからざる具備條件である、といふことになるのである。

藝術民謠を提唱してゐる詩人達もどうやら、此の大衆性を低級卑俗と誤つて解釋したが故に殊更に、藝術民謠と題して餘りに融通性のない自說に自縛され、將稍々辛辣とも思へる程に、に倒れんとしてゐる今日の狀態のやうに見ゐる。藝術のみに囚はれて、民謠の完全な生命のあり得やう筈がない。されば言つて、現代文化の恩惠に浴しつゝある民謠に低級卑俗の歡迎される譯はないのである。されば こそ演歌は、文化生活の發展につれて自滅し、三絃樂器と不離不即のお座敷小唄は、四疊半に道樂息子や不良旦那と共に閉ぢ籠められてしまつたのである

また毎月幾すとなくレコードに依りラヂオに依つて提供される流行歌謠の中に普遍性のあるものは、まことに五指にも足りない。指折りの歌謠の多くが、相當に傑れた詩人達の手になつたものであることを思つてみても、大衆性が決して卑俗低級を意味するものではないことは首肯出來やう。時には粉碎すべき代物の流行もあるが、それは附曲の妙音麗律にその生命があつたのである、と言つても過言でない場合が多い

われわれが民謠の文學運動を提唱してゐる眞意は、凡そ此處に存在するものである。而して流行歌謠の作詞を目指しつゝある人々に此の大衆性の無理解を難詰したかつたからに外ならない。即ち低級卑俗を棄てゝ尠くとも、普遍性の中に文學性を包含せしめよ、かりそめにも君が詩人と自負するならば。といふことに外ならなかつたのである

潮聲硯靜抄帳

秋晴や風鈴なりて梨をむく　森里

秋晴やしめ繩張れる投票所

稻刈るや全く自力更生に　素秋

暮るゝ軒に馬の前掻く

新酒かな　文狂

蜻蛉や靜かに湖のたそがるゝ　欣々子

鳴きつるゝ鵙に明けゆく山家かな

曉の靜けさを鳴くちゝろ虫

磐城歌壇

新妻久滿男選

岡田友之

○打ちつゞく鰯大漁ににぎはひの萱葺き町にころ張りゆく

○うづたかき鰯の山よ初冬晴れの畫の光りをまばゆくはじく

○賣と買山はみるみるくづされて畫ひとときの濱の活況

○潮の香の寒くなりにしきのふけよ鰯の山は濱をうるほす

◎無造作にうち上げられし鰯山なまなましく冬近づけり

小評　平たんな歌ひ方である。印象がまだ生々し過ぎて、作者は摑むのに困つてゐる樣である。三首、四首は再考すべきであらう。最後の歌『無造作に』は作者の主觀も別に嫌らしい所もないからとつて置いた。

童話…

上機嫌

—老下僕の手紙—

燕坂峠

二

『爺よ。今朝は氣持がよいな、朝風呂へ這入らう。風呂の用意をたのむよ』

日頃は小舍に立籠つて、めつたに口さへきかれないナポレオンさまに、さう聲をかけられた私は、周章て入浴の用意をした程です

入浴がすんで、私がタオルを受取ると、ナポレオンさまは

『爺よ。僕はよつぽど痩せたよ。今、風呂の中でふと氣がついたのだが、腕なんか昔の半分くらひに細くなつてゐたよ』

しみじみした聲でさう仰つしやつてしまつたな。あと、何年生きられるだらう……？』

寂しさうに、獨ゝ言のやうに、さう呟やかれました

『めつさうな、……母上ゝ』

レチチアさまへお達者で

すのに、貴方さまが……』

私は口をもぐ〳〵させられるばかりでした。何とお慰め申してよいか解らなかつたからです

朝食後の休息がすむと、ナポレオンさまはいつものやうに、書齋になすつてゐる部屋の蒲團椅子に凭つて嗅煙をおやりになりながら待遇のラスキャース伯を相手に、自傳の口述をお始めになりました。私はいつも口述傳記の筆記が始まるとナポレオンさまのお側に控へてゐますので、ナポレオンさまは自身の口をついて談ンさま自身の口をついて談られる、埃及遠征や、アルプス越えや、マレンゴ！の大勝などをまざ〳〵と想ふのが常でした。口述はどん〳〵はかどりました。靜かな部屋の中には、伯のペンのさら〳〵紙の上を走る音だけ聞ゆるばかりでした。口述はナポレオン皇帝が歐洲に君臨して、ワイマアル公國に宰相ゲーテを引見した折のお話になりました。そこで口述がしばらく止まりました

さび鮎のとぼしき川は瀨をつくる

弔鈴木邦三郎君

珠雲　小野務平

蹠車頭復喚聲紛
奇禍幾人生列分
鄕黨偉材何薄命
淚顏空送夜臺雲

11月17日　△お城碁開かる（寛永三）△淺草文庫開館（明治八）△スエズ運河開通（一、八六九）△鈴木積善師長逝（昭和九）

11月18日　△佐倉宗吾郎直訴のため出府（承應三）△清國軍艦始て長崎に來り紛擾を釀す（明治八）△距今磐甲、平商合同發火演習（昭和八）△今明郡下青訓聯合演習（同九）

ワイの日〳〵

○小春のあたゝかさ——

講談

黃金魔刀

（6）高桑義生作

樋口悅也畫

夜光の士圭（六）

『其奴を打て』と東左衛門は叫んだ

『は』と答へて、二人の武士が、小者から棒を借て、寛之助の左右に立つた

寛之助はグッと睨み上げた、まづ一人が棒を振上げハッシと左の肩に打ち下した。寛之助は動いた。と、他の一人が右の肩を打つた寛之助の體は崩れた

『もつと打て』と東左衛門は言つた

で左右からかはるがはる『しつかり打て。骨身にこたへるまで、打ち据えろ』

三度東左衛門はいつたその聲は慘忍そのものだ寛之助は立つ事が出來なかつた。立たうとするとすぐ次の一打が降る。彼の體は大波のやうに激しく動いたその間に、彼の頭は錦藏の方に向けられるが、向く間もなく打たれた

寛之助はだん〳〵氣が遠くなつて來た

『何のために打たれるのか？——錦藏はなぜ默つて見てゐるのか？もう我慢は出來ない』と思つたが、遂に彼は意識を喪つた

『其奴を牢にたゝき込め』と東左衛門は命じた

小者が駈けよつて、寛之助の手と足を取つた

障子が開いてゐた。坐ると、東左衛門は待つてゐたやうに、

『大變な事になつた』

東左衛門は四十七歲、さすがに大町人らしい、ガッチリした男だ。さかんに海外に飛躍した冒險家だ。彼は一代でつくり上げた財產はどれだけあるかわからない同じ屋號の島原屋といふ、ほかにれつきとした名家があつたが、新しい東左衛門の前に、あるかないかわからなくなつてしまつた

歷史の古い長崎に、歷史を有たない東左衛門、何處の馬の骨かわからない風來の東左衛門は今や隨一の貿易街大分限者として君臨してゐる。名前とか家柄とか、彼の互角の者はある。だが實力は、事實はてんで比較ならない。彼の富は底が知れない、彼の實力は何處まであるかわからない

東左衛門は恐ろしい男だ野心家だ、だが、我利一べんの人間ではない。慘忍で血も淚もない人間でもない恐ろしい、鬼よりも恐ろしい、底の知れない人間

それで、案外彼はやさしい顏をしてゐる。顏だけ見ると、苦勞を積んだ好々爺ポッ〳〵、白髮をまじへて年よりは老けて見ゐる。それで相手を畏服せしめ、はかり知れない權力を有つてゐるのだとは誰が知らうその東左衛門がめづらしく困惑の色を見せて、さういつた、思ひなしか顏も蒼い、東左衛門は驚いた事がない、恐れた事がない、へこたれた事がない——それは勿論彼の腹は大きいからだらう。だがともかく先刻寛之助を打たしめた、あのはげしさが聲だけで、大の男を手足のやうに使つたあの威力が今何處にあるだらう。彼は唇をしかめて錦藏を見詰て、右手の親指の爪をバチ〳〵と嚙んでゐる

『みな引取れ。箕部氏はこれへ』

東左衛門の命令通り、凡ての人間は迅速に行動した開いてゐた緣側の戶は、中から締められた女のはなやかな着物だけが

箕部錦藏は、正統な入口から入つて行つた

島原屋東左衛門は一度寢床に入つたのだが、騷動のために起きて、今は次の間に寢着で、たつた一人うづ高い座蒲團の上に、ポツネンと坐つた

類燒
改築三週年記念
スポーツに紅葉狩りに秋冷快適の折からハイキング、ピクニック等の砌是非御立寄を御願致します。
因みに價格は左の割引を以て御客樣の御愛顧に酬ひんとする弊店の意の在る所を御酌取り下さい。
ヒレナベ（御一人前）四十五錢ヲ四十錢
ロースナベ（同）三十五錢ヲ三十錢
平町田町
石川亭
電話四三番

東部電力冬のサービス
御年寄孝養の爲め
◎便利で危險の無い!!
◎衛生的で經濟的な!!
弊社は日頃の御愛顧に酬ゆる爲め無料で試驗と手入の大奉仕を開始致しましたから伺出の電工に御遠慮なく御申付下さい。
期間中の御申込には特典がありますから御早く御申込の程御願申上ます
御子樣保育の爲め
昭和十年十一月
東部電力株式會社
郡山支店

冬服特賣
セビロ三ツ組　二十三圓ヨリ
實用向オーバー　九圓五十錢ヨリ三圓八十錢マデ
1936型Wオーバー　二十五圓五十錢ヨリ九圓五十錢マデ
トンビ　二十三圓五十錢ヨリ六圓マデ
モヂリ　五圓五十錢ヨリ三圓マデ
紺サージ外套　十圓五十錢ヨリ六圓マデ
サージ立襟服　拾四圓五十錢ヨリ上下五圓九十錢マデ
正札堂洋服店
平町四丁目　電四三六番

耳鼻喉咽科專門
平町田町（電六九一）
病室完備
自炊ノ便アリ
醫學士山內亨吉
山內醫院

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町（小僧さん入用）
三井ハキモノ店
電話一八一番

福祿ストーブ福引
景品付大賣出し
◇景品總額五萬圓◇
期間　昭和十年九月廿五日ヨリ同十年十二月二十日マデ
賣出規定…ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
福引券
フクロクストーブ一號　大衆（中型）寶（大、小）各一本ニ付一枚
フクロクストーブ二號　大衆（大型）各一本ニ付二枚
フクロクストーブ三號　各一本ニ付三枚
フクロクストーブ四號　各一本ニ付四枚
抽籤發表　昭和十一年二月十一日東京朝日新聞ニ發表致シマス。
景品引換　昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス。
景品
一等　百圓　一本
二等　參拾圓　二本
三等　拾圓　三本
四等　五圓　四本
等外　特製福祿便箋（袋籤ナシ）
福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ヘ左ノ景品ヲ差上グ
福祿ストーブ販賣代理店
平町五丁目
釜屋商店
平驛前
阿部石炭商店

問題外
平會館は只料理と酒がウマイだけのことで其の他は凡そ意味ないレストランですよ

漆器
家具
神佛具
雜貨
文具
裁縫具
小店員と女中募集
卸小賣
平町二丁目
近江屋
電話七一一番

冬の通學服賣出
中等生用
國防色　6號……4.00　7號……4.20
黑小倉　特A6號……3.80ヨリ　A6號……3.50ヨリ　B6號……2.00ヨリ
別注文　國防色……5.50均一　黑小倉……6.20均一
ふかや洋服店　平三　電203

舊十月二十三日　曜日　新十一月十八日
月　戊戌
閉　友引
宿　心

▲一白　資力をかへりみず輕しんし我慢な貢かんとし失敗▲二黑　是迄の順調はくつがへり次第に苦難加はり來る日▲三碧　不運と諦めて何事に拘はらず控へ目が安全▲四綠　一家和合して益々他の尊心加はり繁榮の日▲五黃　堅實なれば萬事展開し故しやうも除かゝ日▲六白　短氣と我慢とを却け忠實に勵めば大功あり▲七赤　諸事後退する不良日すべひを招かぬ警戒が吉▲八白　物事に氣後れを生ずるも慎重なれば終に吉▲九紫　運氣盛にして萬事成就す起業開店婚儀等吉

舊十二月二十二日　曜日　新十一月十七日
月　丁酉
開　先勝
宿

▲一白　人の爲に散財も多けれど一面には福分多し▲二黑　氣運上々萬事進んで功績大なり奮闘が肝要▲三碧　一徹頑固を避けて溫和柔順に轉ずれば大吉▲四綠　順調物事を通達し得る日起業開店婚談等吉▲五黃　進展力を增加する日堅實に萬事を謀るべし▲六白　物事八分は通達すれども二分は調ひ難き日▲七赤　漸進すればとかなきも急進は半途にさ折あり▲八白　心氣明朗にして爲す事思ひの儘に運ばる日▲九紫　熱意と緊張に依り難關を打開するに至る日

十七日（小名浜測候所調査）

日出	六、一三	月出後	一、四〇
日沒	四、三〇	月沒前	一、三八
滿潮前	九、四〇	千潮前	二、〇五
滿潮後	七、二〇	千潮後	二、三〇

十八日

日出	六、一四	月出後	一、四〇
日沒	四、二九	月沒後	〇、〇七
滿潮前	一〇、三五	千潮前	二、五〇
滿潮後	八、四五	千潮後	四、〇五

併合後の利害關係上
炭礦地の同意に難色
對各村交渉に一曲折か

平町の隣接五ヶ村併合問題は既報の如く平窪、飯野、神谷の三ヶ村は全村合併も比較的平易にして居り、同村と同一狀態纏るものゝ如くにある內郷村も略々これと觀られてゐるに反し諸炭礦を擁してゐる內郷、好間の二村は夫々これによる利害關係を考慮してか、さきの交渉以來急に硬化せるものの如く金成好間村長にこれが意向を叩くと『極祕問題だが』と前提しながら平が膨脹したいのも好間が殖ねたいのも同じ事だらう、自然衰微は已むない問題だが人情として自村の小さくなる事は餘り良い氣分でもない

と暗に併合反對をほのめかして居り、同村と同一狀態にある內郷村も略々これと同意見らしく來る十九日內郷、二十日好間の交渉にも多少の曲折あるものと觀られるに至つた

神谷村へ交渉延期 平市制施行調査委員會の神谷村併合交渉は十八日の處都合により二十六日午後一時からに延期

磐炭——入山（午前八時半）
高月——平鐵倶（同十一時半）

△決勝（午後一時半）入山對セメント庭球戰 四倉セメント

對入山炭礦の庭球大會は十七日午後一時から湯本町入山コートに開く

。。。